

益田糸操り人形

島根県無形民俗文化財

益田に糸操り人形が伝わったのは明治20年頃といわれています。東京浅草で糸操り人形芝居を興行していた山本三吉が、操り人形の衰退に伴い関西を経て益田に至り、当時盛んであった浄瑠璃の愛好家たちの集まり「小松連」に迎えられたことに始まるとい



われています。彼の指導の基に現在の益田糸操り人形芝居が形づくられました。この人形芝居は、人形操者、太夫、三味線、後見で上演され、地は義太夫節です。

人形の操法は、遣い手が高さ1.5メートルの歩み板の上から丈約70cmの人形の各所に13本から18本の糸を結びつけて、「四つ目」と呼ばれる手板を使って人形に微妙な動きを与えるもので、この操作には熟練を要します。この、益田糸操り人形は、東京の結城座や竹田座に現存する改良された形態とは異なる古い形で、このような古い形をとどめたまま

で上演されているものはわが国で上演されている操り人形芝居の中では唯一といわれています。

昭和38年《益田糸操り人形》は島根県無形民俗文化財に指定されました。

さらに昭和45年には人形が県有形民俗文化財の指定を受けています。



益田糸操り人形

島根県無形民俗文化財

益田糸操り人形保持者会
会長 岡崎文宏

《問い合わせ先》

島根県芸術文化センター「グラントウ」いわみ芸術劇場
〒698-0022 島根県益田市有明町5-15
TEL:0856-31-1860 FAX:0856-31-1884
e-mail zaidan@grandtoit.jp



《益田へのアクセス》

- 飛行機…東京から90分
- 車……大阪から約5時間、福岡から約4時間、広島から約2時間
- J R……大阪から約3時間半、小倉から約2時間



平成28年度 文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業



益田糸操り人形

島根県無形民俗文化財

益田糸操り人形

島根県無形民俗文化財



演目 平成28年11月現在

❖ 寿三番叟

ことぶきさんばそう

❖ 絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段

えほんたいこうき じゅうだんめ あまがさきのだん

❖ 傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段

けいせいあわのなると じゅんれいうたのだん

❖ 伽羅先代萩 政岡忠義の段

めいぼくせんだいはぎ まさおかちゅうぎのだん

❖ 三十三所花の山 壺坂寺 沢市内の段

さんじゅうさんしよはなのやま つぼさかてら さわいちうちのだん

沢市山の段

さわいちやまのだん

沢市谷間の段

さわいちたにまのだん

❖ 玉藻前囃袂 道春館の段

たまものまえあさひのたもと みちはるやかたのだん

❖ 艶姿女舞衣 三勝半七酒屋の段

はですがたおんなまいぎぬ さんかつはんしちさかやのだん

❖ 伊達娘恋の緋廉子 八百屋お七の段

だてむすめこいのひがのこ やおやおしちのだん

❖ 増補朝顔日記 宿屋の段

ぞうほあさがおにつき やどやのだん

大井川の段

おおいがわのだん

❖ 三十三間堂棟木之由来 平太郎住家の段

さんじゅうさんげんどうむなぎのゆらい へいたろうすみのだん

❖ 御所桜堀川夜討 弁慶上使の段

ごしょざくらほりかわようち べんけいじょうしのだん

❖ 鎌倉三代記 三浦別れの段

かまくらさんだいぎ みうらわかれのだん

❖ 加賀見山旧錦絵 七段目 長局の段

かがみやまこきやうのにしきえ ながつぼねのだん

八段目 奥庭の段

はちだんめ おくにわのだん

❖ 山本一流獅子の一曲

やまもといちりゅうししのいつきよく

❖ 義経千本桜 すしやの段

よしつねせんぼんざくら すしやのだん



❖ 寿三番叟

古い猿楽芸を伝えているとも云われ、狂言では能の翁と同じように祝言曲として取り扱われている。顔見世興行や正月には家族繁栄、商売繁盛を祈って演じられる。



❖ 傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段

幼い時に別れた母と娘がやっと巡り会えたのに、事情があって名乗れない母とあてもなく母を尋ねて歩く娘の悲しい場面。



❖ 加賀見山旧錦絵 長局の段・奥庭の段

中老尾上は御殿で局岩藤に草履討ちの屈辱にあう。お家乗っ取りの密書を手に入れた尾上は死をもって訴える。事情を知った侍女お初は主人の仇、お家安泰のため岩藤を討つ決心をして奥庭に潜む。石州浜田藩 松平周防守の江戸藩邸で実際に起きた事件が元になっている。



❖ 絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段

尼ヶ崎に隠れ棲む光秀の母皀月と妻操の元へ、十次郎が出陣の暇乞いに。討ち死に覚悟を察し、二人は許嫁の初菊と祝言をさせる。光秀は茶坊主に変じた久吉が、自分を討ちに屋敷に潜むと知り、藪竹をやりにして突き刺すが久吉に非ず母の皀月だった。



❖ 伊達娘恋の緋廉子 八百屋お七の段

お七は恋仲の吉三郎を何としても今夜中に助けたいがこのままでは切腹に。九つの鐘は鳴り、もう木戸は閉まった。どうしたらと思悩むうち、ふと火の見やぐらに気付く。お七はあることを心に決めやぐらに登る。



❖ 山本一流獅子の一曲

糸操り人形が益田に伝わった当時のものと云われている獅子の滑稽な動きが見もの。